

観光立国の実現は地方(地域)から

新春特別
座談会

訪日外客1000万人時代



波木 恵美氏

100室、旅館の王道追求 Wi-Fi対応不可欠

塩島 東京や京都などいわゆる定番の観光ももちろんするのだが、日本人の普段の生活を見てみたいという意識が強くなっているように、まちに出て自分の足で歩き、ちょっとした路地をのぞいたり、地元ならではの小さな祭りに参加し、そこで人と触れ合いたいという思いが、受け入れられる側も、一施設ではなく、まち全体で受け入れようとする意識が必要になってくる。
タイラー 生活に触れてみたいという意識は強い。地区に神楽保存会という集まりが

免税制度の評価と 受け入れ態勢の現状

——2014年10月、消費税の免税対象が大幅に拡大された。免税店も増えていますね。
新津 免税店は10月1日時点で約9400店となっているが、小売店は全国に100万店ある。わずか1割であり、

老舗旅館、16万人宿泊 FIT化が顕著 言葉の問題ネットク



ジェイソン・ハナフォード氏

まだまだ少ない。
——日本の免税店の特徴は何でしょう。
新津 太平洋戦争後、在日米軍のために設けられた制度であり、初期は米軍基地の周辺に設けられた。増やさない、海外にPRしない、許可しな

というものが原則だった。今回の制度改正は観光立国のために行ったもので大きな転換といえる。小売り、観光業界にとっても大きなメリットがある。免税店の看板掲げることは「ウェルカム」のメッセージにもなる。混乱もあるだろうが、まず免税店になるということが大事だ。
塩島 ヒザ緩和もそうだが、非常に具体的な政策であり、評価している。これまで

は掛け声ばかりだった。波木さんのところは栃木県の旅館のなかで免税店第1号ですね。
波木 10、11月は秋のトップシーズンであり、非常に混んでいないこともあってか、「店員があらで丁寧に対応しているのに、こっちは混んで時間がなかった」というクレームが日本のお客さまから出ました。やはり手続きが面倒です。社員の負担も大きいことから、練習しながら、15年の春節から本格的にやろうと考えています。また免税店効果なのかどうかも正直いって判断しにくい。どういった商品や販売方法がいいのか、試行錯誤の段階ですね。(21面に続く)

出席者 (50音順)

- 塩島 賢次氏 ホテルメトロポリタン 常務取締役総支配人
 - ジェイソン・ハナフォード氏 戸田家インターナショナル ビジネススマネージャー
 - タイラー・リンチ氏 鬼怒川リゾートホテル 亀清旅館若旦那
 - 波木 恵美氏 夢の季社長
 - 新津 研一氏 ジャパンシヨッピング ツーリズム協会専務理事
- 司会・編集長内井高弘



「100年も先のことは、わからない」
なんて言うのはやめよう。
そう決めました。

<http://suntory.jp/FOREST/>

水と生きる SUNTORY

サントリーの天然水は、森がおよそ20年以上もかけてうみだす地下水。この貴重な天然水を未来の子どもたちへつなぐために、森を元気にしよう。「天然水の森プロジェクト」は、今から100年先200年先をおもい、この先ずっと続けてゆくサントリーの大事なプロジェクトです。

現在「天然水の森」は13都府県17箇所。総面積7,600ha超。「工場で使用する天然水の量を上回る地下水を育む」という目標を達成しています。



サントリー
天然水の森
PROJECT.